

三豊市長 横山 忠 始 殿

三豊市一般廃棄物処理施設整備事業
参加意思確認調査評価委員会

委員長 近藤 賢 司



三豊市の次期ごみ処理方式に関する意向調査について（報告）

三豊市の次期ごみ処理方式について、三豊市一般廃棄物処理施設整備事業参加意思確認調査として公募を行い、提案された各社の方式等について評価委員会において審議を行ったところ、次のとおりの結果となったので、三豊市一般廃棄物処理施設整備事業参加意思確認調査評価委員会設置要綱第 2 条第 2 項の規定に基づき、報告いたします。

記

1. 処理方式の案

技術提案書及びパワーポイントによるプレゼンテーションにより各社の提案を評価した結果、下記の方式を、三豊市の次期一般廃棄物処理施設の「方式」の案として決定しました。

固形燃料化方式（R P F 及び堆肥の製造）

2. 評価の方法等

三豊市次期ごみ処理方式に関する意向調査要領に基づき、平成 22 年 12 月 6 日から平成 23 年 1 月 11 日までの期間において公募を行ったところ 7 社から応募があり、計 5 回にわたる評価委員会において審議を行いました。

評価の方法は、三豊市議会ごみ処理問題調査特別委員会において方向づけが行われた「三豊市次期ごみ処理方式に関する意向調査要領」に基づき、別添の「採点評価シート」を作成し、評価項目、配点、採点の算出方法等について決定を行い、各評価項目ごとに評価委員 9 名の採点を平均して得点を算出し、それを集計して技術評価点といたしました。

3. 今後の取り組みへの要望

この評価に基づいて市長に推薦する方式は、現在、国内における実証事例はありません。総合評価方式による評価の結果としてご推薦申し上げるものです。

自治体の責務は、市民生活から出されるごみを安定的に処理することであり、この方式の実用化については、現在行われている実証試験等を注視され、執行部において深く検討していただきたいと思っております。また、市議会特別委員会においてもチェック機能を果たされ、市民生活が不測の事態を招かないよう善処されることを要望いたします。

4. 評価の経過

開催年月日	主 な 内 容
第1回 平成22年12月27日(月)	1. 市長あいさつ 2. 委嘱状交付 3. 議事 (1) 質疑応答の状況について (2) 各処理方式の特長について (3) 今後のスケジュールについて
第2回 平成23年1月6日(木)	1. 議事 (1) 既定事項の確認 (2) 評価項目について (3) 価格と非価格のバランスについて (4) 非価格項目の配点について (5) 低価格提示に対する処置について (6) 非価格評価項目の採点基準について (7) 価格審査の点数化について
第3回 平成23年1月12日(水)	1. 議事 (1) 評価基準について (2) 中間評価(5段階の中間)について (3) 低価格提示の有無の確認について (4) プレゼンテーションの進め方について (5) 応募状況について (6) 技術提案書の評価
第4回 平成23年1月14日(金)	1. 議事 (1) 評価シート一覧表について (2) 各社評価シートについて (3) 価格評価の方法について(確認) (4) 非価格評価の基準について(確認) (5) プレゼンテーション
第5回 平成23年1月20日(木)	1. 議事 (1) 評価結果に関する最終確認 (2) 市長への報告書の検討

・ 評価委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委員長	近藤賢司	市議会議員
副委員長	佐子照雄	副市長
委 員	込山文吉	市議会議員
委 員	前川 勉	〃
委 員	大平俊和	〃
委 員	坂口晃一	〃
委 員	白川清秀	政策部長
委 員	大西弘文	市民部長
委 員	横山和典	建設経済部長

三豊市次期ごみ処理方式に関する意向調査応募状況

会 社 名	所 在 地	提案された方式
有限会社サンフーズ	三豊市山本町財田西 1071-1	食品残渣の飼料化、堆肥化、固形燃料化（RDF）
株式会社大林組四国支店	高松市中央町 11 番 11 号	バイオガス化（不適物は委託処理、収集区分の変更を要望）
株式会社エコマスター	観音寺市大野原町福田原 241 番地 1	固形燃料化（RPF）、堆肥化
株式会社協和土建	丸亀市川西町北 408 番地 1	堆肥化（不適物は委託処理）
JFEエンジニアリング株式会社大阪支店	大阪市淀川区宮原三丁目 5 番 36 号	固形燃料化（RDF）
鹿島建設株式会社四国支店	高松市亀井町 1 番地 3	バイオガス化、堆肥化、固形燃料化（RPF）
三井造船株式会社	東京都中央区日本橋 1 丁目 3 番 16 号	バイオガス化、炭化

採点評価シート

項目	No.	評価項目	ポイント	配点	評価				
					100%	80%	50%	20%	0%
総合	1	諸計画に対する整合性	新総合計画、ごみ処理基本計画、バイオマスタウン構想との整合性は調整されているか。	5					
技術	2	処理水の放流の有無(放流する排水量)	処理水の発生を抑制し、敷地外に極力放流しないものであるか。	10	放流なし	放流量10m3未満	放流量10～12.4m3	放流量12.5～15m3	—
	3	臭気対策	効果的な臭気対策が提案され、外部への影響を可能な限り軽減できているか。	10					
	4	事故等の安全対策	耐震、防災等への考え方、事故・トラブル等への対策は万全か。	5					
管理	5	資源の循環(資源回収量 エネルギー回収量 資源・エネルギー消費量)	処理による生成物を資源として循環させる提案となっているか。 将来性は安定しているか。	5	残渣1t/日未満	残渣1t以上2t未満	残渣2t以上3t未満	残渣3t以上5t未満	残渣5t以上
	6	設備・機器等の安定性(主要設備機器の耐用年数)	設備・機器及び処理システムが将来にわたって安定的な提案であるか。	5					
	7	長期包括的運営(運営期間)	7年以上の長期包括的な運営が具体的に提案されているか。	5	20年以上	15～19年	14～10年	7～9年	7年未満
	8	建設スケジュールの妥当性(期間)	施設の供用開始目標年次の提案が具体的で、適切なスケジュールとなっているか。	5	スケジュールが妥当であるか				
環境	9	環境に与える影響(CO2排出量)	CO2の発生が具体的に抑制されているか。	5	1000t以上削減	750～999t削減	500～749t削減	250～499t削減	250t未満削減
経済	10	産業振興への貢献	本市の産業振興に対する貢献が具体的に提案されているか。	5					
	11	雇用の創出(雇用人数)	雇用の発生が見込まれているか。	5	10名以上	8～9名	6～7名	5名以下	雇用なし
	12	建設費の妥当性		15	計算式により算出				
	13	維持管理費の妥当性		15	計算式により算出				
	14	関連費用の妥当性		5	計算式により算出				
	15	必要面積(参考)		-					